

コリント  
第一  
④

「分断の根  
一致の礎」

コリント人への手紙 I 4章 分派問題・結論

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 忠実なしもべ 4章1～5節
- II. 傲慢か謙遜か 4章6～13節
- III. 謙遜なしもべとなれ 4章14～21節
- IV. まとめと適用

分断の根と一致の礎を確認しよう



## コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中。
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ。  
この後、コリントを再訪。
- **対象** …コリントのキリスト者たち。  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す。



海を挟んで約250km  
陸路を廻れば約1,000km

## 【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都  
自由民20万人 + 奴隷50万人 = 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」  
少年への性愛や複数の愛人も当然。
- かつては海洋民族フェニキヤが支配。  
アシュタロテ礼拝が根付く(ペリシテも)。  
神殿娼婦の存在も。偶像崇拝が蔓延。



コリントの遺跡  
アクロポリスの丘

序文		1:1～9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10～4:21
	②罪に対する懲戒	5:1～13
	③裁判の問題	6:1～8
	④性的放縦の問題	6:9～20
質疑応答	①結婚	7:1～40
	②偶像に捧げた肉	8:1～11:1
	③礼拝における秩序	11:2～34
	④聖霊の賜物	12:1～14:40
	⑤復活	15:1～58
	⑥献金	16:1～12
あいさつ		16:13～24



分派問題への訓戒

1:10~18	罪の叱責・救いの原則	宣教の愚かさ。十字架のみ	
2:1~5	弱さの中での宣教	人の知恵でなく、キリストのみ	
2:6~9	神の知恵	語るべきは、永遠の神の計画	
2:10~16	聖霊の働き	内住の聖霊が御言葉を告げる	
3:1~9	肉に属する人よ	霊的幼子が分派を起こす	
3:10~17	キリストを土台に	神の吟味に耐える働きを残せ	
3:18~23	人の知恵を誇るな	世には愚かな神の知恵を求めよ	
4:1~5	忠実なしもべ	<b>分派の原因は無知と傲慢</b>	
4:6~13	傲慢か謙遜か		
4:14~21	謙遜なしもべとなれ		<b>謙遜に基本に立ち返れ</b>



I. 忠実なしもべ

I コリント4章1～5節

## 【しもべ・管理者として】 1コリント4:1~2

人は私たちが**キリストのしもべ**、**神の奥義の管理者\***と考えるべきです。

その場合、管理者に要求されることは、**忠実\***だと認められることです。

\*当時の家の「管理者」は、奴隷が担った。

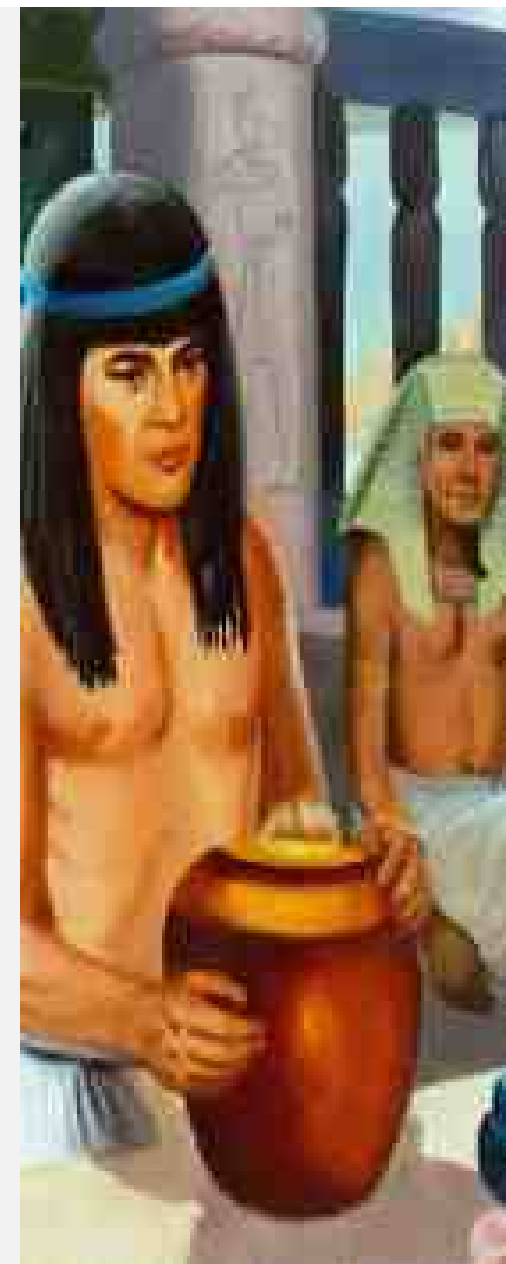
“**キリストのしもべ**” = “**管理者**”

➔主人に最も信頼された奴隷が管理者になった。

例)ポティファルの家の管理者だったヨセフ

\*しもべ、管理者は、主人に**忠実**であるべき存在。

➔**忠実**とは、与えられた分を越えないこと。





## 【未熟者がさばくのか？】 1コリント4:3~4

しかし私にとって、あなたがたに**さばかれたり\***、あるいは人間の法廷で**さばかれたり**することは、非常に小さなことです。それどころか、私は自分で自分を**さばくこと**さえしません。

私には、やましいことは少しもありませんが、だからといって、それで義と認められているわけではありません。私を**さばく方**は主です。

\*取り調べ …ローマ法廷でのイエス(ルカ23:14)

■ 成熟した信仰者であるパウロですら、自分の正しさを自分で主張することはない。

■ しかし、コリントの人々は、未熟な信仰で指導者を吟味し、善し悪しを言い合っている。



あなた方は  
神なのか？

## 【求めるべきは神の称賛】 1コリント4:5

ですから、主が来られるまでは、何についても先走ってさばいてはいけません。主は、闇に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます。そのときに、神からそれぞれの人に称賛が与えられるのです。

- 神に成り代わって他者をさばく信仰の未熟者には、再臨の裁き主イエスからの厳しい報いがある。
- 信仰の未熟者が他者を裁く本当の動機は、罪の闇に隠れている、私的で不当なものである。
- 世からの評価がどうあれ、主に忠実な者には、神からの称賛が与えられる。

信仰の未熟者  
への警告!!

あなた方は  
神なのか？



Ⅱ. 傲慢か 謙遜か

I コリント4章6～13節

## 【書かれたことを越えるな】 | コリント4:6

兄弟たち。私はあなたがたのために、私自身とアポロに当てはめて、以上のことを述べてきました。それは、私たちの例から、「書かれていることを越えない\*」ことをあなたがたが学ぶため、そして、一方にくみし、他方に反対して思い上がることのないように\*するためです。

\*律法と預言者(旧約聖書)と使徒たちの書簡(新約)

\*分派の元は、教理的逸脱。

■聖書から逸れて、自分の感情や考えを第一にする、それが、分派、分裂の問題の根っこ。



## 【すべては与えられたもの】 1コリント4:7

いったいだれが、あなたをほかの人よりもすぐれていると認めるのですか\*。あなたには、何か、人からもらわなかったものがあるのですか\*。もしももらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか\*。

\*信仰の優劣を判断できる人はコリントにいない。

\*修辞法 → 事柄を印象づけるための表現方法。

ひとひねり加えてあるが、内容はシンプル。

■ すべて教えられたものなのに、自分で考えついたことであるかのようにあなた方は誇っている。



## 【終末論的皮肉】 1コリント4:8

あなたがたは、もう満ち足りています。すでに豊かになっています。私たち抜きで王様になっています。いっそのこと、本当に王様になっていたらよかったです。そうすれば、私たちもあなたがたとともに、王様になれたでしょうに。

＊終末論的皮肉。

→来るべき神の国(千年王国)で、信者は、王の王であるキリストと共に世界を治める。



## 【世の見世物とされて】 Ⅰコリント4:9

私はこう思います。神は私たち使徒を、死罪に決まった者のように、最後の出場者として引き出されました\*。こうして私たちは、世界に対し、御使いたち\*にも人々にも見せ物になりました。

■ ローマのコロッセウム(円形闘技場)での公開処刑の様子。

\*ここでは、地上の墮天使(悪霊)



## 【パウロとコリントの人々】 | コリント4:10

私たちはキリストのために**愚かな**者ですが、あなたがたはキリストにあって**賢い**者です。私たちは**弱い**のですが、あなたがたは**強い**のです。あなたがたは**尊ば**れていますが、私たちは**卑しめ**られています。

- コリントの信者たちは、自らの**賢さ**を誇り、**力**を顕示し、支持者からの**尊敬**を集めていた。
- パウロは、世には**愚かな**キリストの福音に生き、自らの**弱さ**しか誇るものはなく、世からも、コリントの信者たちからも**卑しめ**られていた。

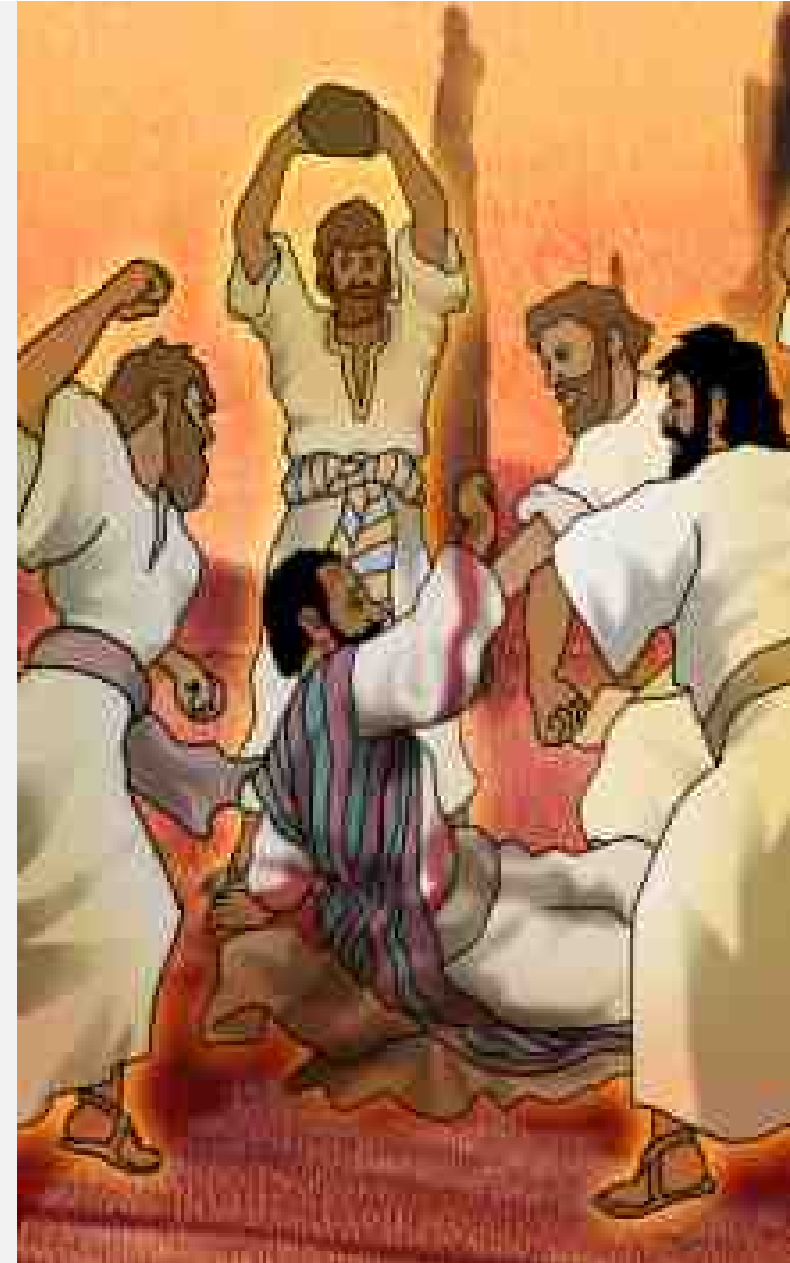




## 【使徒の受難】 I コリント4:11~13

今この時に至るまで、私たちは飢え、渇き、着る物もなく、ひどい扱いを受け、住む所もなく、労苦して自分の手で働いています。ののしられては祝福し、迫害されては耐え忍び、中傷されては、優しいことばをかけています。私たちはこの世の屑、あらゆるものの、かすになりました。今もそうです。

- クリスチャンの歩みは、世の価値観とは対極にあると身をもって示すパウロ





Ⅲ. 謙遜なしもべとなれ — I コリント4章14～21節

## 【パウロの愛】 1 コリント4:14~15

私がこれらのことを書くのは、あなたがたに  
恥ずかしい思いをさせるためではなく、**私の愛  
する子ども**として諭すためです。

たとえあなたがたにキリストにある養育係が  
一万人いても、父親が大勢いるわけではありません。  
この私が、福音により、キリスト・イエ  
スにあって、あなたがたを生んだのです。

- パウロの叱責や皮肉の動機は、あくまで**愛**。  
→ 手紙という限られた手段で、あらゆる手法  
を用いて、コリントの人々に訴えている。



## 【パウロの愛する子テモテ】 Ⅰコリント4:16~17

ですから、あなたがたに勧めます。私に倣う者となってください。

そのために、私はあなたがたのところにテモテ\*を送りました。テモテは、私が愛する、主にあって忠実な子です。彼は、あらゆるところのあらゆる教会で私が教えているとおりに、キリスト・イエスにある私の生き方を、あなたがたに思い起こさせてくれるでしょう。

\*小アジアのリストラ出身。父はギリシャ人。

第2回伝道旅行以降、パウロに同行。

➡パウロいわく、「真の我が子(Ⅰテモテ1:2)」

「愛する子(Ⅱテモテ1:2)」



## 【コリント再訪の可能性】 コリント4:18～20

あなたがたのところに私が行くことはないだろうと  
考えて、思い上がっている人たちがいます。

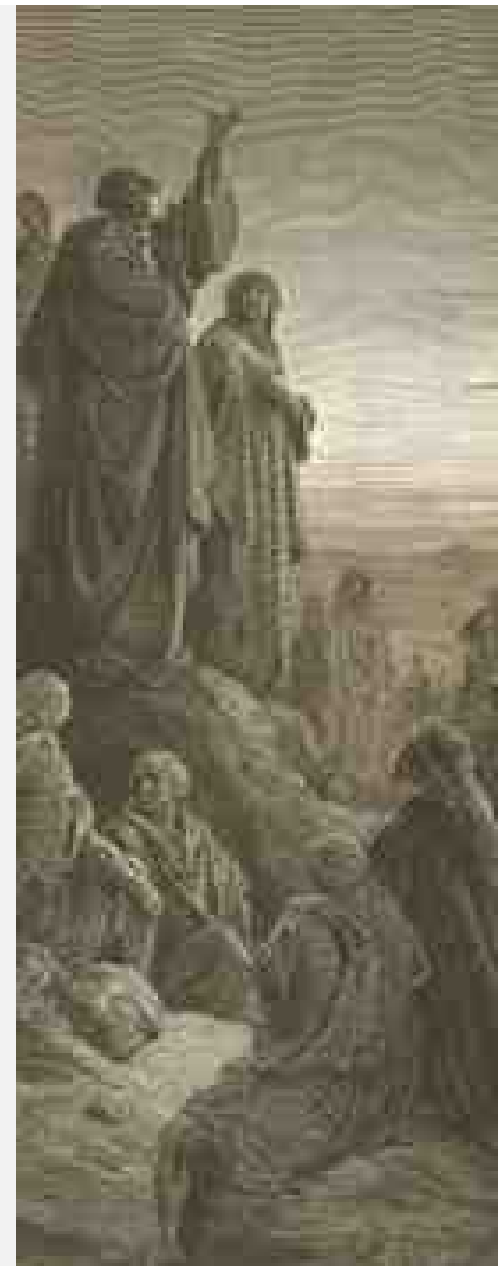
しかし、主のみこころであれば、すぐにでもあなたが  
たのところにいきます\*。そして、思い上がって  
いる人たちの、ことばではなく力を見せてもらいま  
しょう。神の国は、ことばではなく力にある\*のです。

\*2年のエペソ滞在の最後に大迫害を受け、

パウロは、ギリシャを巡ってエルサレムに帰還。

\*真実に解き明かされた神の言葉には力がある。

信者には、苦難と試練に耐える力が与えられる。



## 【ムチか、柔和か】 | コリント4:21

あなたがたはどちらを望みますか。私があなたがたのところに、むちを持って行くことですか。それとも、愛をもって柔和な心で行くことですか。

■パウロのこの厳しさも愛のゆえ。

信仰者には、決して譲れない**神の義**があり、

なんとしても手放してはならない**神の愛**がある。

■へりくだって十字架の贖いを成し遂げられた、

救い主イエスは、

王の王、世の裁き主として、再臨される。



## IV. まとめと適用 分断の根と一致の礎を確認しよう



## 【コリントの信者たちを分断させた原因から考える】

- 指導者のえり好みは、自分の感情や考えを第一にすることだった。  
→ 傲慢に陥り、自らを誇り、仲間内で固まり、他者の批判に終始。
- 信仰的に未熟。霊的幼子。乳である初歩の教えもままならない状態。  
→ にも関わらず、自分で指導者の善し悪しを判断する愚かさ。
- 無知と傲慢が、分断の根だと、パウロは厳しく指摘した。  
→ キリストのみの救いの原則。神の計画、信仰の成長について、基本的な教理について改めて説きつつ、主の前での、悔い改めと謙遜を、人々に再三求めたパウロ。



## 【パウロの切実な訴えの背後にある、神の義と愛を受け取ろう】

■ 海路で250km。陸路で千km隔たったコリントまでの道筋。

伝えられる手段は、テモテに託した手紙だけ。

一方で、コリントの教会は、まったなしの危機的状況に陥っていた。

■ 叱責も皮肉も、ひねりも、あらゆる表現を必死に用いたパウロ。

すべては、神の義と愛を正しく伝え、人々を悔い改めに導くため。

➡立ち返るきっかけになれば、どう思われようとかまわない！！

■ 義なる神は、どんな小さな悪とも共存しえない、きよい方である。

だから、キリストを犠牲として救いを示された。ここに愛がある。

## 【いつでも問われるのは、自分自身の信仰。学びと成長】

■ 地域教会が分断するとき、必ず基本的教理からの逸脱がある。

…指導者自身か。役員や執事か。個々の教会員か。

■ いつでもまず、振り返るべきは、自分自身の信仰。

**初歩の教え(救いの原則、信仰の成長、教会組織、終末論)について、理解しているか？**

→ “理解できている”とは、“他者に説明できる”ということ。

学びと理解なくして、判断できるはずがない。

謙遜に学ぶことから始めよう。

■パウロが求めた力は、行いに伴うもの

**現在進行形のあかしがあるか？**

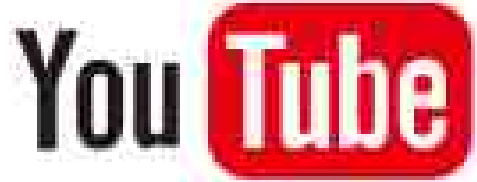
**今、自分の使命に取り組んでいるか？**

**他者への批判の前に、  
自分自身に問いかけよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、  
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、  
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、  
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

無知と傲慢こそ、私たちを引き裂く、罪の根っこです。  
私は、主の前にへりくだり、学びを重ねていきます。  
福音を伝えれば、世は私を愚かな者だとあざけります。  
私の置かれた弱さの中に、主の力が、ご聖霊を通して  
現れてくださいますように。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」



# バイブルスタディ

★次回予告：2021年10月12日(火) 午前10時より

## 「コリント人への手紙第一 5章」

★Zoomでの分かち合いのコーナーも!!

11時10分くらいから、分かち合いの時間を持ちます。

★今後の予定：10/26(火)、11/9(火)、